# 令和4年度　温室効果ガス排出量の公表について

## 1．市の事業活動全体に伴う温室効果ガス排出量

【市の事業活動全体に伴う温室効果ガス排出量】

**15，807　t-$CO_2$**　（令和4年度実績）

【　内訳　】

①温室効果ガスの種類別排出量

| 温室効果ガスの種類 | 単位 | 基準年度（平成28年度） | 令和4年度 |
|---|---|---|---|
| 二酸化炭素（$CO_2$） | kg-$CO_2$換算 | 13,940,473 | 15,437,262 |
| メタン（$CH_4$） | kg-$CO_2$換算 | 32,777 | 40,275 |
| 一酸化二窒素（$N_2O$） | kg-$CO_2$換算 | 319,980 | 327,521 |
| フロン類（HFC） | kg-$CO_2$換算 | 2,516 | 2,399 |
| 温室効果ガスの合計 | kg-$CO_2$換算 | 14,295,745 | 15,807,457 |

②部門別の温室効果ガス排出量

| | | 平成28年度 合計（kg-$CO_2$） | 令和4年度 合計（kg-$CO_2$） |
|---|---|---|---|
| 1 | 市長部局（環境部、上下水道部除く） | 1,001,035 | 963,627 |
| 2 | 教育委員会部局 | 883,187 | 864,777 |
| 3 | 環境部 | 11,603,276 | 13,231,820 |
| 4 | 上下水道部 | 808,246 | 747,232 |
| | 合計排出量（kg-$CO_2$） | 14,295,745 | 15,807,457 |
| | 合計排出量（t-$CO_2$） | 14,296 | 15,807 |

※端数処理により、合計が一致しないことがあります。

## 2. 削減目標の達成度

【 削減目標 】

温室効果ガスの排出量を令和4年度（2022年度）までに、

**3%削減**する。【平成28年度比（2016年度比）】

| | 基準年度 | ←実施期間→ | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | 平成28年度 | 平成30年度 | 令和元年度 | 令和2年度 | 令和3年度 | 令和4年度 |
| t-$CO_2$ | 7,307 | 7,658 | 8,499 | 7,426 | 7,919 | 8,555 |
| 平成28年度比増減量 | | +351 | +1,192 | +119 | +612 | +1,248 |
| | | 4.8%増加 | 16.3%増加 | 1.6%増加 | 8.4%増加 | 17.1%増加 |
| | | | | | | 目　標 |
| | | | | | | 7,088 |
| | | | | | | −219 |
| | | | | | | 3%削減 |

※計画に基づき、一般廃棄物の焼却等に伴う温室効果ガス排出量（平成28年度：6，989t-$CO_2$、平成30年度：7，505t-$CO_2$、令和元年度：8，053t-$CO_2$、令和2年度：7，393t-$CO_2$、令和3年度：7，057t-$CO_2$、令和4年度：7，252t-$CO_2$）については、対象外とします。

【令和4年度の温室効果ガス排出量】

①市の事業活動全体に伴う温室効果ガス排出量：　15，807　t-$CO_2$

②一般廃棄物の焼却等の温室効果ガス排出量　：　7，252　t-$CO_2$

①−②＝　8，555　t-$CO_2$

〇温室効果ガス排出量増加の理由

令和4年度の温室効果ガス排出量が増加した主な原因として、環境部における桜井市グリーンパークごみ処理施設の灯油使用量の増加が挙げられます。グリーンパークを建設する際、搬入されるごみの熱量は2,200kcal/kgを基準値として設計しましたが、昨今の搬入されるごみの熱量は低下傾向にあります。不足する熱量を補い、ごみを安定して継続的に燃焼するための助燃材として灯油を使用しているため、その使用量が増加しています。また、処理困難物等の不適物の混入が原因で、ガス化炉内でシンタリング（ガス化炉出口の閉塞）が発生した場合に、除去作業中に炉内温度を保つ必要があるため、灯油を使用しキープ運転（円滑に焼却を再開するための維持管理運転）を行います。このシンタリングの増加も灯油使用量の増加の原因となっています。